



2025 年 8 月 1 日

参院選に欠けていたもの

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 浅川 雅嗣

夏の参議院選が終わり、自公政権にとっては厳しい結果となりました。今回の選挙結果で特徴的なのは、自民党を支持していた保守層の一部が自民党に投票せず、新しい保守政党に票が流れ、保守票が割れたことでしょう。それとともに、投票日が三連休の中日だったにもかかわらず投票率が上がり、SNS などを通じて従来はあまり選挙に興味のなかった若者の政治に対する認識が高まってきたように思えます。SNS に依存しすぎる選挙行動のリスクに関して、様々な警告がメディア、学者等から発信されたのも、健全でバランスの取れた傾向だったと思います。

選挙戦も終盤になった時、外国人問題が急遽選挙の論点に浮上してきました。参政党、保守党といった新政党が選挙スローガンに掲げ、それに有権者が素早く反応した結果でしょう。しかし、正直いってそうした世論の急速な高まりには少し唐突な印象を受けました。少子高齢化が進み、労働人口が減少し続け、多くのセクターで人手不足に直面している日本において、ある程度の経済成長を実現するためには、外国人労働者の活用はもはや不可欠だと思います。とすれば、きちっとしたルールのもとに彼ら彼女らといかにして上手に共生していくか、中長期的観点から冷静な議論が必要です。もちろんこの国とも国境を地続きで接しない島国である日本にとって、他の国以上にセンシティブな問題があるとは思いますが、少なくとも我々が抱える社会、経済、政治に関する種々の問題は、外国人に対する排外主義によって解決するはずがありません。

もう一つ、今回の選挙の争点になったのは、価格高騰対策として減税か給付金かいずれが適切かということでした。マーケットはすでに投票前から減税を主張する野党の優勢を織り込み、その結果財政拡大圧力が高まるとみて、国債の長期金利が上昇する局面もありました。確かに物価高は有権者の一大関心事であることには間違いなく、その対応策としていかなる経済対策が適切かは重要な政策課題です。しかしながら、それ以前に、日本の財政状況は主要先進国で最悪の状況であり、今後金利が上昇してきますと、さらに財政状況は深刻なものになります。社会保障費、自然災害等の有事対応、インフラの維持管理、国債の新規発行コスト、借換えコストなど、財政にかかる負担は増すばかりです。こうした歳出増大要因をどのように適正に管理していったらいいのでしょうか。日銀が国債購入額を減額する中、日銀に替わって安定的に

国債を購入、保有する主体は誰なののでしょうか。

今回の選挙で、中長期的な観点からのこうした財政の持続可能性について、政党間での議論がほとんど聞かれなかったのはやや残念なことでした。もちろん政治はまず現に国民が直面している諸課題につき、いかに政策対応すべきかを優先します。しかしそれと同時に、我々が抱えている中長期的な課題である労働力不足、財政問題など、今後絶対に避けて通れない諸問題に関する議論を常に忘れてほしくないと思います。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

Copyright 2025 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。